

# 芽が出て、葉が出て、花が咲く！

第1学年

## 文林学芸発表会③

引き続き、みなさんの作文です。お互いにどんなことを感じ、考えたのか、文章を読んで知りましょう。

僕は、今回の学芸発表会で驚いたり、おもしろかったり、また感動したことなどがたくさんあります。まず驚いたことです。僕は歌や発表で満足したことがありました。そして、三年、二年の発表を聞きたいと思っていました。当日、二年と三年の歌、発表を聞いてとても驚きました。すごく迫力があり、心に響くような一人一人が歌っていることがわかるようないい歌でした。また、三年生の劇は、難しそうな動きなどもあったのに、ちゃんと動けていて一人一人が心をこめて演じていて、圧巻の演技でした。

次に、おもしろかったことです。一年生の旧四班の人たちの発表は、映像にも工夫があり、とてもおもしろかったです。二年生の発表でも思わず司会席で笑ってしまいました。

私たちは、最初の学芸発表会で何をすればいいかよく分からなかったけれど、先輩のフォローもあって、無事終わることができました。三年生は最後だったので涙もありましたが、最後は笑顔で終わることができたのでよかったです。

今回の学芸発表会は、涙あり笑いありでしたが、無事終わった達成感も強かったです。

僕は、団結力が大好きだ。今回文林学芸発表会で自分たち一年一組は、一年合唱と全校合唱の2つをみんなでやることになった。曲名は、「大切なもの」「時を越えて」の二曲を歌う。最初の練習では、なかなかうまくいかなくて、何時間もかけて練習していくうちに、やっと、歌らしくなってきた。けれども、先生が「まだ全然だめだ」と言うので、みんな汗を流しながら暑い中にもかかわらず、練習を続けた。家でも近所迷惑になるくらい練習した。そして、初めて三年生と一緒に歌の練習をした。しかし、一年生の歌声は、三年生にかき消され、みんなが自信をなくし始めてしまった。そこでまた歌の猛特訓が始まった。今度は、声の大きさを大きくして二、三年生に負けないくらい大声で歌う練習をした。ついに運命の時、三年生と歌う時がきた。みんな大きな声で歌った。ついに先生に「OK」と言われた！！かなり嬉しかった。三年生に勝ったわけではないが。その後、全校合唱の練習。全校で合わせると男子パートがだんだんずれていってしまった。「これはやばい、このままで本当に本番いけるのか？」と思った。本番まであと少しなのに不安になってきた。その後の練習でも男子パートがずれて不安が増すばかりだった。次の日の予行練習。そこではなかなかいい感じだった。

そして迎えた当日、みんなが緊張をしていた。最初はみんな大きな声でバッチリだった。でも問題はサビだ。そこで男子パートを引っ張るパートリーダーの栗田空君が大きい声でみんなを引っ張ってくれた。本気で歌ってみんなで団結することができた。

みんなが全力で歌って、一つになれたと思った。みんなが本気で歌ったから最高の合唱になったんじゃないかと思った。これからも、みんなが団結をして行事も行事以外のことでも全員がしっかりできるようにしていきたいし、一年だけでも頑張れるような、立派なクラスにしていきたいとこの学芸発表会を通して思った。



僕は、今回の学芸発表会を通して協力・相談・自立心を学びました。僕は展示係に選ばれました。最初、自信がなかったけれど、とりあえずやってみました。最初はあまり大事な物だと思っていませんでしたが、だんだんやっていくにつれてすごく大切なものなんだと思いました。僕は昼休みに色々集まって活動する中で、一番遅れていました。その時はあまり危機感を感じていなかったけれど、活動していく中で「自分は遅れているなあ」と感じてきました。そして、本番一週間前、自分はほとんど何もできていないことに気がつきました。「やばい」と初めて思いました。僕は先生に一言も相談していなかったのです。それから先生に相談にいくと、「もっと早く相談しなさい。」と言われました。それから先生にも入ってもらい、どんどん作業が進みました。そして一番に終わることができました。先生に相談して良かったと感じたと同時にもっと早く相談すれば良かったとも思いました。そして学芸発表会当日。今まで練習してきた歌も大成功でした。これからは、相談・自立心・協力という学んだことを生かして頑張っていきたいと思います。

私は、学芸発表会を終えてとても心に残っていることが、何個かあります。まず一番心に残っていることは、クラス合唱の伴奏をしたことです。伴奏をできると決まった時はとても嬉しかったけれど、伴奏というのはとても難しく、一音でも間違えたりしてもすぐ分かってしまうので、とても緊張しました。みんなと合唱を合わせたのは、とてもギリギリになってしまいましたが、何とか間に合いそうだったのでよかったです。本番では、今まで練習したことを精一杯発揮することができ、自分の立てた目標も達成できたと思います。二つ目はジュニオケとの合同合奏のことです。打楽器のシンバルやバスドラムなど、テンポがとても速くてついていけませんでした。特に一番大変だった曲は、「宝島」です。リズムや楽しんで演奏しようとする、テンポを忘れてしまい遅れてしまいます。本番はとても盛り上がり楽しく終わることができ、よかったです。三つ目は、展示の準備と八ヶ岳の発表です。展示の準備はとても大変でした。(中略)今回の学芸発表会を終えて分かったことは、最後まで、あきらめないことです。伴奏、合唱、展示と最後まであきらめなかったら、最後には嬉しいことが待っていることが分かりました。

2017年10月28日、文林中学校。本番数日前から学芸発表会の練習が続いた。一年生は出る幕が多い。ほとんどの人は、出番が少ないが何人かの人は、多くて大変そうだ。部活で資料集めをしている人もいれば、練習する人もいる。あれがあったらおもしろいかな、これがあったらいいかな、と考えて作る人がいる。ここには何があり、どうなっているのかを見に来た人に知らせるためのものを作る人がいる。見に来た人のために用意する人がいる。ある事情で作業を止めて帰る人がいれば、最終下校まで作業をする人もいる。休み時間を使って進める人もいる。僕もギリギリまで色々な作業をした。作品を完成させたり、会場の準備をしたりした。

そして、今日、文林学芸発表会当日。たくさんの保護者が集まり、来賓の方がきている。たくさんの方が来ている中で、失敗は見せられない。むしろ本番だから失敗をしない。午前中体育館で歌った。初めは緊張した。けれど、チームワークで歌おうと思ったら緊張しなくなった。今までの練習通りでやったら、団結力が高まって、いい歌になったと感じた。3学年合同で歌ったら一年生だけの時より団結力が高まった気がした。午前部が終わり、班と一緒に展示作品を見る時間になった。班の発表を聞いたり、作品を見たりした。時間になったら、班で発表したりしてた。いよいよ僕らの発表の出番になった。またもや緊張でいっぱいになってきた。僕はスムーズに話せなくて恥ずかしかった。その癖を直したいと思った。ここでは連携プレーで発表を進めていった。大勢の人が来ていて緊張がさらに増した。

初めての学芸発表会を終えて、疲れ果ててもう力がなく、なにもできない感じになっていた。チームワークがあったからこそ成功できた学芸発表会だった。